

1

【さあ主にささげよう】

F B♭ F B♭ F C7 F
 さあ主に捧げよう 感謝の 歌を
 F B♭ F B♭ F C7 F
 さあ主に捧げよう 感謝の 歌を
 C7 F C7 F
 ハレルヤ ハレルヤ 力の限り
 C7 F Gm C7 F
 ハレルヤ ハレルヤ 主にささげよう

ただ一つの願い

F B♭M7 B♭6 Dm7

ただひとつわたしの

Gm7 C

ねがい もとめは

F B♭M7 B♭6

主の家に住まうこと

Dm7 Gm7 F

いのちの限り

Dm Am7 Gm7 F

※うるわしき主を仰ぎ見て

Dm Am7 Gm7 F

主の宮に住み 主を思う(×2)

慕いまつる主の (新聖歌396)

1. 慕いまつる主の 御招きある今 十字架担い行かん 愛する主の後を

※いづくまでも行かん 何処までも行かん
何処までも行かん 愛する主の後を

2. 血潮混じる汗 流し祈る主の ゲッセマネにも行かん 愛する主の後を

3. 打たれ ののしられ はずかしめ受くる 人前にも行かん 愛する主の後を

4. 君の御恵みに 浸りしわが身は 栄え望み行かん 愛する主の後を

5 祈りのガイドライン

1. 賛美と感謝の祈り
2. 悔い改めと主を慕い求める祈り
3. 個人的な願いの祈り
4. とりなしの祈り

- ・大和カルバリーチャペルと大川牧師ご夫妻のため
- ・瀬戸カルバリーチャペル

- 主が羊飼いであることを知り、満たされるように
 - 教会員とご家族の養いと導きと守りのため。
 - 魂の救いと地域の伝道のため
 - インターネット YouTube が用いられるように。
 - 病いや困難と闘っている兄弟姉妹のため
 - ライブアートスタジオのこれからのため
- ウクレレ教室/キッズ英語教室/クリスマス CD

5. 日本と世界の平和を願って...

- 日本の国の霊的回復とリバイバルのため
- アジアの緊張関係にあって日本が用いられるように
- アメリカ大統領選とこれからの世界情勢のため
- イスラエルの平和のため

著者: 片柳弘史神父

1971年生まれ(私の三歳上!)

コルカタ(カルカッタ)でボランティア活動する中で、マザーテレサから「神父になるように」勧められ、イエズス会入会。現在、山口県の教会の神父、幼稚園講師・刑務所の教誨師として働く。

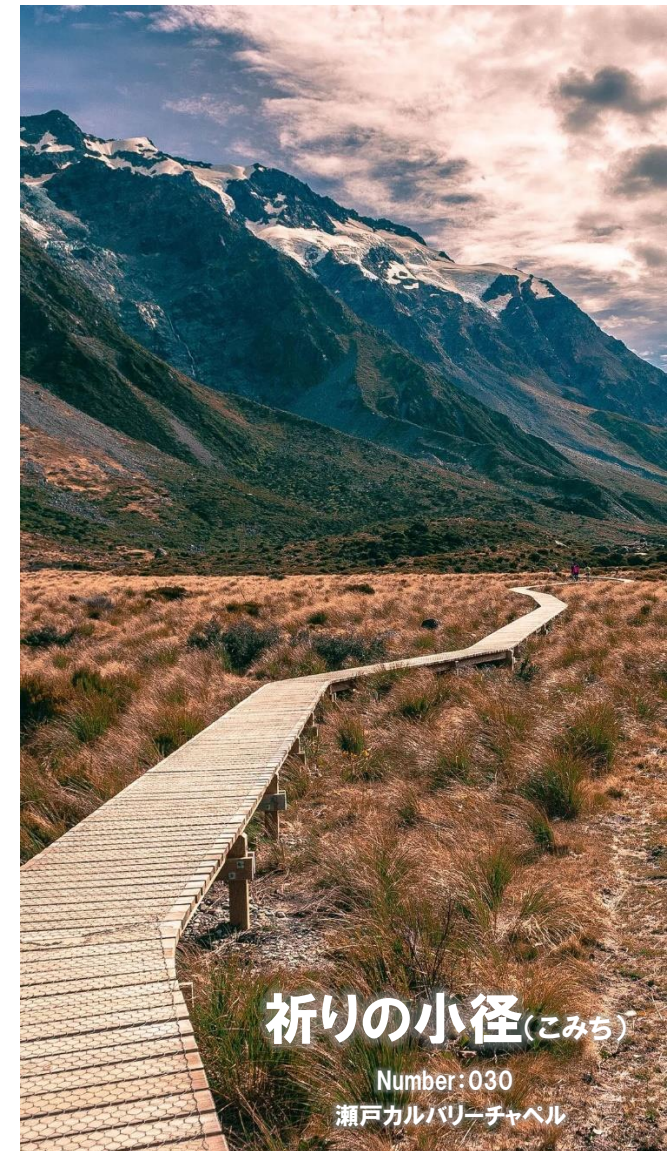


瀬戸カルバリーチャペル

Seto LIFE ART Studio

愛知県瀬戸市みずの坂 5-64 0561-48-8899

牧師: 倉知契 kei.kurachi@gmail.com



祈りの小径(こみち)

Number: 030

瀬戸カルバリーチャペル

「祈りの小径(こみち)」の名称は、愛知県瀬戸市・せともの街の名所「窯垣の小径」と、詩人・八木重吉の作品にある「祈りの路」から名付けられました。各ページにある数字の順に、賛美→聖書→黙想→解説→祈りを致しましょう。

2 今日の聖書のことば

ゆっくり読んで黙想しましょう。

ペテロの第二の手紙3章8～13節

8 愛する者たちよ。この一事を忘れてはならない。主にあるは、一日は千年のようであり、千年は一日のようである。

9 ある人々がおそいと思っているように、主は約束の実行をおそくしておられるのではない。ただ、ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、あなたがたに対してながく忍耐しておられるのである。

10 しかし、主の日は盗人のように襲って来る。その日には、天は大音響をたてて消え去り、天体は焼けてくずれ、地とその上に造り出されたものも、みな焼きつくされるであろう。11 このように、これらはみなくずれ落ちていくものであるから、神の日の到来を熱心に待ち望んでいるあなたがたは、12 極力、きよく信心深い行いをしていなければならない。その日には、天は燃えくずれ、天体は焼けうせてしまふ。13 しかし、わたしたちは、神の約束に従って、義の住む新しい天と新しい地とを待ち望んでいる。

テモテへの第一の手紙2章1～4節

1 そこで、まず第一に勧める。すべての人のために、王たちと上に立っているすべての人々のために、願いと、祈と、とりなしと、感謝とをささげなさい。

2 それはわたしたちが、安らかで静かな一生を、真に信心深くまた謹厳に過ごすためである。

3 これは、わたしたちの救主である神のみまえに良いことであり、また、みこころにかなうことである。

4 神は、すべての人が救われて、真理を悟るに至ることを望んでおられる

3

黙想とこころの投影の時間

(感じたこと・恵まれたことをノートします)

4 みことばの解説

ペテロの第二の手紙のクライマックス3章に入りました。彼はなぜこの手紙を書いたのか、もっとも大きな理由をここで述べています。

それは「主の日」が来る、「神の日の到来」が必ずある！という約束への揺るぎない信仰を持つことです。誰がなんと云おうと、「最後の時」は来る、そしてそれは「新しい天と新しい地」であると書いています。

私たちは、このような天国への期待、イエス様と再会し、家族と再会する日を楽しみに、待ち望むことは良いことです。

しかし、ペテロは「主の日」が、まだ来ていない理由もはっきり述べています。それは、ただ、ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、あなたがたに対してながく忍耐しておられるのである。(2ペテロ3の9)

テモテの手紙にあるように、私たちは「すべての人のために」とりなし祈ることが求められています。「ひとりも滅びる(失われる)」ことなく、羊飼いなるイエス様が見つけてくださるように、私たちも「主の声」とさせていただきましょう。

99匹を置いて1匹を探しに出かける羊飼いのたとえ話を、カトリックで大きく用いられている片柳弘史神父はこう解説しています。

1匹を放っておかない神様の愛は、損得勘定をはるかに超えている。神様にとって大切なのは利害損得ではなく、いま苦しんでいる一匹の羊。その苦しみを思うと、いてもたってもいられなくなって探しに出掛けるのが神様だということを、イエス様は伝えたいのです。

すべての人が救われるために、ひとりを愛する。ひとりをひとりと考えず、すべての人と考える、尊い深い神様の愛に満たされて、「主の日」まで祈り続けましょう！